



開通後、エチオピアに向けて物資を運ぶ大型トラックの列。悪路に苦しめられていたドライバーたちから工事関係者に向け感謝のクラクションが鳴らされた。



2019年4月22日に執り行われた契約署名式。左からジブチのアホメド・アライタ・アリ駐日大使、スバネ・サイド・イズマエル設備運輸省道路局長、久保徹JICS代表理事、大日本土木/戸田建設JV代表の波多野秀美・大日本土木(株)執行役員・海外支店長(肩書は当時のもの)



国境施設付近の車道整備の様子



ワジ(酒れ川)横断部の9連ボックスカルバート



竣工式での在ジブチ大使館・大塚海夫特命全権大使(中央左)と大日本土木の古市義人所長(大使の左)



ジブチ政府関係者とのワンショット

■主な整備内容と規模

主な項目	整備規模
加熱混合アスファルト舗装による道路整備	20.35km
セメントコンクリート舗装による国境施設付近の車道整備	415m
ワジ横断部の渡河構造物(ボックスカルバート)の整備	7カ所
雨水排水構造物(ボックスカルバート)の整備	32カ所
標識、ガードレール、路面表示等の付帯施設整備	1式

## <無償資金協力> 物流担う大動脈を改修し「連結性」を強化

ジブチ  
経済社会開発計画：  
ジブチ主要幹線道路改修

調達代理機関：(一財)日本国際協力システム(JICS)  
コンサルティング：八千代エンジニアリング(株)  
施 工：大日本土木(株) / 戸田建設(株) 共同企業体

### 迅速実施を最重視

「アフリカの角」と呼ばれる東部地域の物流拠点として、極めて重要な位置づけにあるジブチ。特に国境を接する内陸国のエチオピアにとっては「外港」の機能を担っており、ジブチ港を控える首都ジブチからエチオピア国境のガラフィまでをつなぐ国道1号線は、エチオピアの輸入物資の実に9割以上を運ぶ最重要幹線道路になっている。

ところが近年、道路の損傷が目立ち、特にエチオピア国境からの

約20km区間では多数の箇所ではアスファルトが剥がれるなど、損傷の度合いは深刻であった。現地を視察した日本側関係者によると、ジブチ港からエチオピアに向かう大型トラックの隊列がトロトロとしか走れず、傷みの程度は予想以上だったという。

物流を担う大動脈だけに、その改修は貿易サービス部門を主要産業とするジブチにとどまらず、エチオピアにとっても喫緊の課題になっていたのである。ジブチ政府から最も損傷の激しい当該20km区間の改修につき協力要請を受け

た日本政府は、事業の緊急性を踏まえ、「足の速さ」に強みを持つ無償資金協力制度に注目。「経済社会開発計画」での実施を決定した。

### コロナ禍の中、工事進む

E/N(交換公文)が締結されたのは2018年11月28日。供与額は39億円。事業に求められる迅速性と「連結性の強化」という日本政府の重点政策を背景に、規模の大きい経済社会開発計画となった。

E/N締結翌月の18年12月には、調達代理に当たる(一財)日本国際協力システム(JICS)とジブチ政

府との間で調達代理契約が結ばれ、JICSは年明けの19年1月に日本の建設業界向けに説明会を開催。同時に施工業者選定のための入札準備を進めていった。入札の結果、アフリカ地域のインフラ整備で実績を持つ大日本土木(株)/戸田建設(株)の共同企業体が受注。早速、アスファルトプラントの設置など準備工に向けた取り組みを開始していった。

現地で工事所長を務めた大日本土木の古市義人氏によると、プロジェクトサイト帯は土漠が一面に広がり、付近に店舗があるような街はなく、生活必需品の補給についても220km離れたジブチ市からの輸送に頼らざるを得なかったという。また、工事開始当初、古市氏やJICS関係者らが苦勞したのは、この事業が日本の援助プ

ロジェクトであることが周知されず、地元住民の理解と協力がほとんど得られなかったことだ。

そこで日本側関係者は、作業員らが居住するキャンプ施設の警備や維持管理要員などを地元の有力者を通じて募集。地域にとって極めて貴重な雇用機会の創出に努めるとともに、地元住民の要望が大きかった生活用水の供給を地元の協力業者を通じて定期的に継続し、住民の心をつかんでいった。

また、工事の中盤には新型コロナウイルスのパンデミックが発生したものの、一帯は土漠地帯。古市氏は「僻地であったことが幸いし、工事を中断することなく無事完成することができた」と振り返る。

コロナ禍が世界で猛威を振るう中、政府開発援助(ODA)による

多くの国際協力事業が中断、あるいは延期に追い込まれた。そうした中、途切れることなく当初計画どおりに完遂できた数少ないプロジェクトになったと言えよう。

### 感謝の「クラクション」

引き渡しと開通は2020年12月に行われた。これにより貨物量が3万2,900トン/日から4万9,000トン/日(事業完成4年後)、対象区間の通過時間は約1時間から20分(同)に短縮される見込みだ。

古市氏は、「道路開通後、悪路通行で大変苦勞していたトラックの運転手たちから、工事関係者に向けて感謝のクラクションをもらった時、それまでの苦勞が本当に報われた気持ちになりました」と笑顔を見せた。